

令和3年度 パートナーシップ（学校運営連絡）協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立橘高等学校 パートナーシップ連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 教務主任＝事務局長、内部委員8名 計9名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任（第4学年主任兼務）、学年主任4名 計9名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
PTA会長、近隣自治会代表2名、公共職業安定所部長、近隣中学校長、墨田区産業観光課支援課長、墨田区教育委員会統括指導主事、近隣警察署生活安全課少年係 計8名

2 令和3年度パートナーシップ協議会の概要

- (1) 協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和3年6月18日（金）開催実績なし
新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から開催中止、報告資料を持って代替えとした
第2回 令和3年11月19日（金）内部委員7名、協議委員5名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
第3回 令和3年2月18日（金）開催実績なし
新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から開催中止、報告資料を持って代替えとした
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和3年6月18日（金）
新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から開催中止、報告資料を持って代替えとした
 - ① 令和2年度学校経営報告
 - ② 令和3年度学校経営計画、学校運営連絡協議会の課題
 - ③ 令和3年度パートナーシップ協議会委員及び都立橘高校委員名簿
 - ④ パートナーシップ協議会（学校運営連絡協議会）設置要綱
 - ④ 令和3年度 都立橘高校定時制 年間行事予定表
 - ⑤ 令和3年度 第1回パートナーシップ協議会 本校の現状と取り組み
 - ⑥ アンケートによる協議委員からの意見集約第2回 令和3年11月19日（金）内部委員7名、協議委員5名
 - ① 授業公開
 - ② 伝統工芸教育の推進について
 - ③ 本校の現状と課題に関する報告、授業アンケート集計結果
 - ④ 協議委員からの教育活動に対する意見交換
 - ⑤ 学校評価アンケートの内容について協議
 - ⑥ 第2回都立橘高等学校定時制課程いじめサポートチームを同時開催
 - ⑦ いじめアンケート
 - ⑧ 生活指導に関するルール第3回 令和4年2月18日（金）
新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から開催中止、報告資料を持って代替えとした
 - ① 本校の取り組みと課題（副校長、各分掌、学年）について報告
 - ② 学校評価の結果報告
 - ③ アンケートによる協議委員からの意見集約

3 パートナーシップ協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・1月 全校生徒 対象：88人 回収：77人 回収率：87.5%
 - ・1月 保護者全員 対象：88人 回収：26人 回収率：29.5%
 - ・2月 地域・住民 地域代表闘病のためアンケートは、過去3年間のデータを集計した
 - ・1月 教職員 対象：15人 回収：12人 回収率：80%

(3) 主な評価項目

- ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフワークバランスの推進、新型コロナウイルス感染症予防対策について

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・設問全体に渡り、生徒、保護者の回答は「そう思う」、「少しそう思う」の肯定的意見は生徒が平均83%（昨年度81.7%）、保護者は73%（昨年度78%）、昨年度と同等の良い評価を得られた。
- ・一昨年度、昨年度に比べると保護者からの回答数は増加傾向であったが、今年度は回収率は29.5%と減少した。アンケートの時期に変更はなかったが、日本語を母語としない家族が21.5%おりアンケートの設問が難しかった事が考えられる。次年度に向け、ルビ振りや母語に合わせたアンケートの作成を進め回収率を上げるようにしたい。
- ・アンケートの自由意見では、家庭と学校のコミュニケーションから人材育成、生涯学習などキャリアプランに関する意見が多くなり、保護者が学校に求める内容に変容が見られるようになった。
- ・地域からのアンケートを分析すると登下校中の交通マナーの改善が多く指摘されている。
- ・生徒・保護者・職員からは、概ねライフワークバランスの推進が進んでいる回答を得られ。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・約8割の生徒、保護者が肯定的な意見を示している。学習については、ICTの活用やプリントの利用など、工夫を凝らした授業によって、積極的に学習に取り組める環境になった事、全職員が生徒とのコミュニケーションを多くとり、親身になって相談に応じたことが肯定的な意見に繋がったと考えられる。今後も生徒や保護者と連携を深め信頼される学校を目指す。
- ・保護者の回収率を上げて正確なデータにするため、生徒の手渡しの他、郵送を活用する等の改善策を検討し回収率の向上に努める。また、日本語を母語としない家族が21.5%おりアンケートの設問が難しかった事が考えられる。次年度に向け、ルビ振りや母語に合わせたアンケートの作成を進め回収率を上げるようにしたい。
- ・地域住民からは、生徒の交通マナーにいて指摘されることが多い。日頃からの指導の他に指導週間を設定し交通マナーの向上に努める。
- ・地域住民の方に、設問の回答全般から、「わからない」が約50%を占める。学校からの情報発信不足や地域とのかかわりが薄い事が要因と考える。様々な行事や機会を通して、地域から親しまれる学校として努力する事が肝要である。

4 パートナーシップ協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) パートナーシップ協議会を実施して得られた成果

【1 協議会員より】

厚生労働省などの在り方検討員会でも話がされている。しかしながら、法務省の制度を変える話では無い。

昨日の新聞に、特定技能制度第2号の特別枠が他の産業に広げる検討を始めた事が載っていた。少しずつ改善がされていくと思われるが、現行の制度でしか対応ができなもので心苦しい。

【2 成果と課題】

外国籍の子供で滞在ビザや入国してきた時期で就職できない状況です。したがって、上級学校へ進学し卒業すると特定活動に変更することができる。しかしながら、授業料も高く奨学金も受けにくい。

そこで、定時制専門高校の状況をアンケート行い調査・分析した。その結果を、外国にルーツを持つ生徒のキャリアプラン（橘スタンダード）を作成する準備を進めている。

【2 協議会員より】

子供は部活動を通して友人が増えた。また、行事や地元での活動が成長へと繋がった。しかし、新型コロナウイルス感染症のため活動ができず残念です。今後の活動や生徒の成長について不安です。

(2) パートナーシップ協議会を実施して明らかとなった課題

- ・生徒や保護者の要望やこれからの時代に応える学校運営を実施する。
- ・社会人としての身だしなみはもちろん、あいさつ、言葉遣いは重要である。規範意識を持たせる指導を継続する。
- ・情報発信については、ホームページの利用、地域の回覧板を活用し教育活動を発信していく方法は効果的と考える。積極的な情報発信を進める。

5 パートナーシップ協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・各主任が総合的に協力しあい、全職員で学校運営を進める。
- ・個々の教員の得意分野を活かす組織づくりを推進する。
- ・パートナーシップ協議会を活用し、地域や保護者・外部機関等の意見を聞き、学校経営に多く取り入れる。
- ・個別面談や保護者会、PTAの協力を得て行う学年懇談会など、保護者と緊密な連携を図る。三者面談を確実に行う。また、HPを見やすく、内容を充実させ、さらに学校便り等を通じて保護者へ学校の情報を届けられるように工夫を施す。

(2) 学習指導

- ・生徒は授業に関して概ね満足している。生徒にとって、求められる授業とは、「わかりやすい授業」、楽しく興味が持てる授業」である。授業が理解しやすいプリントの作成、興味・関心が持てるICT機器を利用した教材研究を進め、基礎学力の定着を図る。
- ・他校の研究授業への参加や教科指導に主眼を置いた校内研修に取り組む。
- ・母語を日本語としない生徒も増えていることから、教材のルビ振りや日本語指導を活用した日本語指導体制の構築と指導の充実を図る。

(3) 特別活動

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策に合わせ、新しい生活様式、新しい教育活動の定着を図り、徐々に行事を再開する。
- ・活発な部活動へ重点的にサポートを行い、公式戦への参加数の増加、成果が向上するように努める。さらなる部活動の活性化を起爆剤に、部活動への興味・関心を高め部活動への参加を促進する。

(4) 生活指導

- ・挨拶や時間を守る習慣を身に付けさせる。また、SNSの利用法等、日常的に指導を行う。
- ・日常的に相互授業参観を行い、授業を通して教科担当や参観者が指導を行い、規範意識を身に付けさせる。
- ・生徒とのコミュニケーションを多くとることで信頼関係の構築や生徒からの情報提供によって、問題行動を未然に防ぐ
- ・スクールサポーターや近隣地域から寄せられる情報を大切に活かすようにする。

(5) 進路指導

- ・1学年の早い時期から、キャリア教育を充実させ、学級担任と副担任、進路担当が一体となって組織的に進路指導を行う。
- ・ハローワークのジョブサポーターと連携し、より実践的な進路指導を行う。
- ・生徒一人ひとりに全職員が面接指導や入試対策など、きめ細やかな指導を行う体制を構築し、チーム橋・定で進路実現に向けた取り組みを行う。
- ・入国管理法や滞在ビザによる就労活動の範囲を研修し、外国籍の生徒の進路実現にむけ取り組む。

(6) 健康・安全

- ・保健体育、部活動を通して体力の向上を図る。
- ・食育指導や給食指導を通して、健康管理の意識をも身に付けさせる。
- ・SCと連携協力を密にして、教育相談体制を整備し、生徒の心のケアを行うとともに家庭への支援を行う。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合 以下アンケートより

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなった、多少良くなったと答えた協議委員の人数 5人（昨年度4人）

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
4	2	0	0	0	0	2

① 学習指導・生活指導について

- ・引き続き根気強く指導をお願いします。
- ・発達障害や知的障害を持って生徒が定時制へ進学する傾向が有る。本来の形とは異なりますが、この様な生徒が様々な学習や活動に取り組み、自分に自信をつけ卒業してほしいものです。
- ・母語を日本語としない生徒が増える中でも、生徒のために努力をされている事が見て取れる。素晴らしいと思います。
- ・私語が少なくなった事は素晴らしいと感じました。
- ・不良行為があった生徒については、今後も情報共有を図りたい。
- ・様々な生徒が居る中で、教員の声かけなどを含めた努力に感謝します。

② 進路指導・特別活動について

- ・ハローワークとの連携が大切だと感じました。
- ・引き続き、連携をお願いします。
- ・一人一人に対して、どのようにすれば生徒に合った進路を保護者などと話あって慎重に推進している。

③ 学校を良くするための案

- ・生活や文化を教えていく事が大切だと思います。
- ・コロナの進捗にもよりますが、落ち着いたなら地域の方との意見交換をした方が良いと思います。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

【成果】 母語を日本語としない生徒の就職を円滑に進めるため、入国管理法や滞在ビザによる就業制限など、諸々の情報提供をいただき、進路指導に活用した。

8 その他

- ・地域への働きかけが円滑に進んでいない。また、高齢者の世帯が多いことから、ホームページの他、閲覧板などを活用し学校の広報活動を進める。
- ・コロナ収束後、公開講座や外部との連携を増やし、地域連携を推進する。